

令和4年度 学校自己評価及び学校関係者評価表

武蔵村山市立第三中学校

経営理念	① 生徒一人一人を大切に ② 生徒の良さ、可能性を伸ばす ③ 教師の持ち味を生かし、勝負する
------	--

【学校運営協議会・会長】	兼城 みや子
学校運営協議会（学校評価分）	第1回 4月21日（木） 第2回 7月14日（木） 第3回 12月8日（木）

	経営目標 (中期・短期を明記)	目標達成のための方策	評価指標	自己評価		改善策(来年度の目標設定、具体記取組目標)	学校関係者評価		
				目標値 11月 達成値	最終評価 達成度 評価		意見	評価点 (4点満点)	
確かな学力の向上	【中期】 生徒の基礎学力の定着と向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>「三中スタンダード」を徹底し、授業を展開する</li> <li>タブレット端末を効果的に活用し、主体的な学びの充実を図る</li> <li>定期考査前の質問教室や地域未来塾、三中サマースクール等を活用し、補充的学習を実施する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケート</li> <li>保護者アンケート</li> <li>地域関係者の評価</li> <li>補充的学習の回数、参加者数</li> </ul>	90	A A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業が分かりやすいと考えている生徒」が2年生で80%以上、1・3年生で90%以上いる。</li> <li>ICTの活用を意識した授業を教員一人一人が意識したこともあり、多くの生徒が授業を分かりやすいと感じており、また一人一台端末をもっと取り入れてほしいと考えている。</li> <li>放課後の質問教室やサマースクールなどは生徒の学力向上につながっていると、生徒・保護者が感じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「三中スタンダード」を教員がより意識した授業を実践し、また生徒や保護者には「便り」等で周知を図っていく。</li> <li>ICTの活用については、来年度はタブレットの持ち帰りを可能とし、学力の向上と家庭学習の習慣化につながるが、指導していく。</li> <li>質問教室等はマンネリ化にならない内容の工夫・充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用した授業改善に努めており、視覚的に分かりやすく、理解が深まる授業に取り組んでいる。</li> <li>ICTは様々な利点があるが、使い方ひとつ誤ると個人情報流出、トラブル問題に発展するため注意が必要だと感じます。</li> <li>定期考査前の質問教室等を適時行っており、基礎学力の向上が図られているものと考えます。</li> </ul>	3.7
	【中期】 家庭学習の習慣化と定着を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学習の手引き」を活用し、家庭学習の計画を立てさせ、学習習慣を身に付けさせる</li> <li>保護者会や学年便りなどで、家庭学習習慣の確立に向けた保護者への啓発を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケート</li> <li>保護者アンケート</li> <li>地域関係者の評価</li> <li>家庭学習状況調査の結果</li> </ul>	85	B B	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習の習慣については、1年生で70%以上、3年生で80%以上身に付いていると感じているが、2年生は約40%しか感じていない。</li> <li>家庭学習の習慣が身に付いていないと考える保護者や学校運営協議会委員が多い。</li> <li>家庭学習の習慣を身に付けさせるためには、保護者に任せるだけでなく、学校からの具体的な対策を求めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も家庭学習の必要性は進路学習や道德などの時間を使いながら、生徒になぜ必要か、大切かを呼び掛けていく。</li> <li>具体的な取組は難しいが、保護者会やたよりなどで保護者に地道に家庭学習への取組の重要性を呼び掛けていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1・2年生の家庭学習が定着していない。課題等をしっかりとやっていく習慣を付けさせてほしい。</li> <li>家庭学習は保護者の意識の啓発が必要。</li> <li>家庭学習の重要性。「なぜやるのか」、いやいやするのではなく、学習することにより将来どんな効果があるかを生徒に知ってもらえるかが大事だと感じます。</li> </ul>	3.1
	【中期】 読書活動とNIE教育を推進し、言語能力向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝学活終了後、朝読書を行う。また、学校司書と連携し、学級図書や図書室活用を通して、本への興味・関心を高め、読書量を増やす</li> <li>社会科を中心にNIEを実施する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケート</li> <li>保護者アンケート</li> <li>地域関係者の評価</li> <li>本の貸し出し回数</li> <li>NIE実施回数</li> </ul>	90	B B	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝読書への取組は、多くの生徒が意欲的に行っているが、疑問に感じている生徒もいる。</li> <li>学校運営協議会委員の評価は高いが、保護者には朝読書の取組が十分に伝わっておらず、その活動の意義が十分理解されていない。</li> <li>NIEへの取組には個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝読書の有効性を周知したうえで、今後も朝読書を継続して行い、質を高める工夫をする。(記録を付けるとか)</li> <li>朝読書の取組を家庭にも伝える工夫が必要である。(図書便りだけでなく)</li> <li>NIEは教員個人の取組になっているので、校内で組織的に継続していくが、検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書への意欲は、生徒たちの行動を見ていると十分にあると思えます。</li> <li>NIEでの活動が、生徒の新聞投稿の掲載実績が出ていて言語の能力の向上ができています。</li> <li>学校評価アンケートでは、ほとんどの生徒が朝読書に取り組んでいる。一方で、我が子が読書に取り組んでいるとしている保護者は少ない。</li> </ul>	3.6
豊かな心の育成	【中期】 いじめ撲滅への取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>年3回のふれあい月間を活用し、いじめに関するアンケートや教育相談を充実させ、いじめ防止の取組を行う</li> <li>SNSに関するトラブルの未然防止のため、情報モラル教育を行う</li> <li>道德の授業において、生命尊重や思いやりの心を育成する授業を展開する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケート</li> <li>保護者アンケート</li> <li>教師の自己評価</li> <li>地域関係者の評価</li> </ul>	90	A A	<ul style="list-style-type: none"> <li>年2回のいじめアンケートや担任を中心とする見守り等の取組の効果が出て、生徒・保護者とも安全・安心に学校生活を送ることができていると感じている。</li> <li>SNSを通したいじめなどの問題を、セーフティ教室等の授業で注意・喚起するなど、生徒の「いじめ防止」の意識を高めることができています。</li> <li>不安や悩みを抱えている生徒の把握、迅速かつ適切な対応を行う体制の維持が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後もいじめアンケートを定期的実施する。こまめに二者面談を行うなどして、いじめのサインを見逃さず教員間で情報を共有し組織的に迅速・的確に対応する。</li> <li>教員の人権意識向上と「いじめの対応」、「体罰防止」の研修会を継続して実施し、教員の意識向上を図る。</li> <li>学年会などで、ベテラン教員と若手教員で、生徒理解、生徒指導について話し合う時間を十分確保し、必要に応じて研修を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生方や保護者の方がいじめの「兆し」に早く気付けるよう取り組んでもらいたい。</li> <li>教師が授業中や休み時間の巡回を行うとともに、場合によっては声かけも行っているが、いじめは表に現れにくい面もあるため、引き続き生徒の様子の変化に気を配ってほしい。</li> <li>いじめに関する情報収集の方法としてアンケートのみでは不十分であるものと考えます。例えば、匿名方式でのポスト設置等。</li> </ul>	3.6
	【中期】 特別な支援を要する生徒への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教室、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係機関と連携し、教育相談活動の充実を図る</li> <li>特別支援教育の手法を活かした学級経営や教科指導を実践し、個に応じた指導を推進する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の自己評価</li> <li>地域関係者の評価</li> </ul>	85	A A	<ul style="list-style-type: none"> <li>SC、SSWを含めた教育相談委員会を週1回実施し、配慮が必要な生徒の情報を共有し、また対策を講じている。しかし、保護者や学校運営協議会委員にはその活動の様子がなかなか見えていないようである。</li> <li>スクールカウンセラーと生徒の全員面談を実施し、生徒理解に努める。</li> <li>個別の支援対策としての別室指導を丁寧に行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教室に対する保護者の理解が不十分なので、情報の発信を定期的に行う。</li> <li>SCや別室指導の存在などが十分認識されていないので、活用や成果などをアピールしていく。</li> <li>三者面談や必要に応じた家庭訪問を継続的に実施する。</li> <li>不登校生徒や別室指導の生徒の対応のための教員を配置し、改善を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者との連携を密にして、生徒本人が安心して過ごせる環境を希望します。</li> <li>全ての子によりよい環境での学習がいきわたるようなサポートを今後も期待いたします。</li> <li>これからも個々に応じた教育指導を推進してもらいたい。</li> <li>特別な支援を要する生徒については、保護者やスクールカウンセラー等の関係機関と連携を密にし、当該生徒にとって最適な対応を図ってほしい。</li> </ul>	3.6
	【短期】 あいさつの励行と礼儀・マナー等の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>いつでもしっかりとあいさつができる生徒を育成する</li> <li>来校者等に対してあいさつや礼儀をわきまえた行動がとれる生徒を育成する</li> <li>市の礼儀読本を活用し、礼儀やマナーを身に付けさせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケート</li> <li>来校者アンケート</li> <li>教師の自己評価</li> <li>地域関係者の評価</li> </ul>	85	A A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒は挨拶の習慣が身に付いていると感じているが、一部の保護者や学校運営協議会委員は挨拶が不十分と感じている。</li> <li>保護者や学校運営協議会委員によって、あいさつに対する評価が大きく異なっている</li> <li>学校外や部活動によって、挨拶する姿勢に差がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校外や部活動での挨拶の定着化が図れるよう、教員自らが積極的に挨拶することで生徒への周知を図る。</li> <li>校長面接、地域の方々による面接練習等を通して礼儀の指導をしていく。</li> <li>道德や朝礼、各学年集会等で挨拶、マナーの意義について生徒に考えさせる指導を継続して行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>元氣よく挨拶を返してくれる子が多く見受けられます。</li> <li>挨拶は社会人になってからも大事なことで、ぜひ、挨拶ができる生徒にしてもらいたい。</li> <li>訪問者の減少のせいかわ、自ら進んで挨拶する生徒が減っていると感じる。</li> <li>休日部活動の登下校における交通マナー（3列に広がる道路を歩く等）、学校以外での礼儀・マナーが非常に悪い。</li> </ul>	3.4
健やかな体の育成	【中期】 基礎体力の向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育の授業時における基礎体づくりやミニオリンピックの実施（学校2020レガシー教育の推進）</li> <li>家庭での体力向上への取組を推進する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケート</li> <li>保護者アンケート</li> <li>教師の自己評価</li> <li>地域関係者の評価</li> </ul>	90	A A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒は体力向上に積極的に取り組んだと感じおり、また保護者も体づくりが行われていることを周知している。</li> <li>コロナの影響もあり、全体的に基礎体力が落ちている。</li> <li>運動が苦手な生徒に対する働きかけが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度は運動会の形式も個人種目を取り入れた形式に戻し、またミニ・オリンピックも年3回実施し、生徒の体力向上を図る。</li> <li>運動が苦手な生徒も取り組みやすい種目や競技なども検討し、全体的な体力の向上を図る。</li> <li>体力向上の取組を地域や保護者に発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動に意欲的に取り組んでいる生徒の割合が高くよいです。</li> <li>運動、体育競技の苦手な生徒もいる中、スポーツ、運動が楽しく、真剣に取り組んでもらえるかを工夫する事が大事だと感じます。</li> <li>基礎体力がついていない生徒が多いことは残念。</li> </ul>	3.8
	【短期】 食育を推進し、健康に過ごす意識の向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食時の放送を利用して、食材の紹介をする取組を行う</li> <li>「弁当の日」や「食育の日」を実施し、食育を推進する（学校2020レガシー教育の推進）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケート</li> <li>保護者アンケート</li> <li>教師の自己評価</li> <li>地域関係者の評価</li> </ul>	85	A A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「弁当の日」で生徒は弁当づくりに積極的になり、食育講演会を実施することで、生徒の食に対する意識と理解が深まった。</li> <li>「食育の日」で食事に対するマナーを身に付けさせることで、生徒の意識が高まった。</li> <li>保護者や地域の方々にも十分周知されており、その意義に対する評価も高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度は食育に対する学習も行うことでより一層の理解を深めるようにする。</li> <li>「食育の日」を設定し、三年間でフォーマルな食事に対するマナーを身に付けさせる。</li> <li>「弁当の日」「食育の日」によって、どの程度効果が見られたのか、例えば数値化して、保護者等に伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>弁当の日は子どもにとって良い経験だと感じる。改めて親への感謝の気持ちも育てると思う。</li> <li>苦手な食材を克服するのではなく体のバランスを考えどんな栄養を取り入れることが大事か学んでいける取組が必要だと思います。</li> <li>「弁当の日」や「食育の日」を設けても食育に直結するとは限らないものと考えます。</li> </ul>	3.7
※学校裁量	【短期】 小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>三中校区合同研修会を年間2回開催し、2学期に研究授業と協議会を実施する</li> <li>「ふれあいフェスティバル」を実施し、生徒と児童の交流を図る</li> <li>キャリア教育交流、委員会連携、研究授業の参観</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケート</li> <li>保護者アンケート</li> <li>教師の自己評価</li> <li>地域関係者の評価</li> </ul>	90	A A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ふれあいフェスティバル」や委員会交流は参加する生徒が一部であるが、交流の機会と生徒・保護者とも周知している。</li> <li>コロナ禍で行動が制限される中で、十分な活動と評価されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者へはお便りやツイッターなどで発信しているが、地域にどのように発信していくか、検討が必要である。</li> <li>「ふれあいフェスティバル」の運営方法については、さらにより良い方法を検討していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ツイッター等での伝達方法の活用を希望します。</li> <li>武蔵村山では、都内でも先駆けての2校もの取組があり、多くの生徒たちの自主性を重んじながら下級生・上級生へのいい刺激になっていると感じます。</li> <li>コロナ禍のため難しい面もあると思うが、様々な機会を通じて三小、雷塚小と交流を深め、小中一貫教育のメリット(中1ギャップへの対応等)が生かせるように取り組んでほしい。</li> </ul>	3.7
	【中期】 保護者・地域に学校の取組を発信し、開かれた学校を推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域人材を活用し、「ふれあいフェスティバル」や「働く人の話を聞く会」、「高校の先生の話聞く会」等を実施し、小中連携や地域との交流を推進する。</li> <li>学校公開週間の実施や学校HPを活用し、学校行事や取組を発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケート</li> <li>保護者アンケート</li> <li>教師の自己評価</li> <li>地域関係者の評価</li> </ul>	90	A A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校公開やTwitter、各種便りなどで学校の様子がよく分かると考える保護者が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校公開週間を設けているが、参加する保護者が少ないので、保護者の参観を呼びかける対策を検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「三中だより」や学校のホームページで行事や取組がよく理解できる。</li> <li>三中のツイッターでは、随時情報が更新され、写真画像も多く掲載されているので、学校の様子がよく分かる。</li> <li>保護者や一部地域の方々に限定(毎回同じ方々等)されており、広い意味で地域に学校の取組が発信されているものと感じられない。</li> </ul>	3.5
	【短期】 基礎的・基本的事項を向上させ、発展的学習につなげる	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種検定やコンクール等に自主的に取り組み、学習意欲の向上と個性の伸長を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケート</li> <li>地域関係者の評価</li> <li>検定受験者数、コンクールの応募数</li> </ul>	80	B B	<ul style="list-style-type: none"> <li>英検や数検などを取得した生徒は全体の40%程度にとどまっており、ポスターなどのコンクールへの出品も少ない。</li> <li>運営委員は積極的に参加していると評価している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度もさらに資格取得やコンクールへの出品が増えるよう、情報提供及び参加を呼びかけていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各活動がとて意欲的に取り組まれていると感じます。</li> <li>3年において、漢検、英検、コンクールへのチャレンジの割合が1、2年から上がってきてよいと思う。</li> <li>生徒一人一人が検定に挑戦したいと思える取組を学校、家庭でサポートする事が大事だと思います。</li> </ul>	3.8

【達成度】 = [達成値] / [目標値]

【評価】 A：8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定

B：8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施

C：5割未満→目標の見直し

平均値

3.6



